

第14回現地見学会開催報告

KSCD 事務局

京滋コンクリート診断士会では、第14回現地見学会を以下のとおり開催しました。当日は大勢の方のご出席を頂き、盛況裏に終了できました。ご出席頂きました皆さまの支援とご協力に感謝いたします。

1. 日 時：令和元年5月23日（木）午前8時45分～午後5時00分
 2. 見学地：平野橋、長佐橋、梅田橋（京丹波町土木建築課管理）
両橋（福知山土木建設部道路河川課管理）※当会パンフレットのシンボル橋梁
 3. 行 程：京都駅 八条口→平野橋、長佐橋、梅田橋、両橋→味夢の里にて昼食→施設内ミーティングルーム（講演）→京都駅 八条口（終了・解散）
- 案内・サポート：（一財）京都技術サポートセンター、京丹波町土木建築課
講 演：① 江頭 慶三氏（一般財団法人 災害科学研究所）
② 井上 誠氏（株式会社 安部日鋼工業 メンテナンス部）
同 行：河野 広隆先生（京都大学大学院工学研究科・工学博士 本会顧問）
後 援：（一社）近畿建設協会 （一財）災害科学研究所



▲見学会挨拶（京丹波町土木建築課の皆さま）



▲現場での説明



▲味夢の里ミーティングルームでの講演

- 当日は会員のほか一般参加者を含め45名の参加がありました。
- 各橋梁では、京丹波町土木建築課さまの事前説明と足場・親綱等の安全対策を行っていただきました。
- 味夢の里での昼食後、ミーティングルームをお借りし、会員に抛る講演2題と河野先生に本日の講評をいただきました。

丸一日の見学会だったので、終了後は現地解散し事務局、講演者だけで慰労会を行いました。

現地レポート 本会員 古城さまよりお寄せいただきました。

【KSCD】第14回現地見学会に参加して

いつもより早く起床して東舞鶴駅に向かっている、京都府北部「京丹波町」を中心に行われる、戦前及び戦後に築造された老齢橋梁の現地見学と勉強会への参加のためである。

京都駅八条口前に45名が集合し、9時にバスが一路京丹波町の梅田橋に向かい出発した、参加者の日頃の行いが良いのか空は五月晴れで、絶好の見学会日和である、バスの車内で見学対象橋梁の建設年度及び概要と劣化状況の説明があり予備知識を得て、1番目の平野橋に到着した、筑後58年経過したPC桁橋梁である、皆さん元気に河床に降りて細部まで目視点検し参加者それぞれが自分なりの劣化原因を推察している。2番目は築後86年が経過し劣化が進み、現在は歩道橋として供用されている「長佐橋」鋼スパン・プレスト・アーチ橋である、昭和8年架橋で鋼製アーチ部分はリベットで結合されており、親柱は石材を加工して構築されている、デザインに設計者の思いと当時の施工技術の高さが感じられた橋梁であった。3番目の梅田橋は昭和12年に架橋された2径間単純RCT桁橋である、筑後82年が経過しているが現在も供用中である、経年劣化が進み修復工事が計画されているが、桁下を覗いてみるとひび割れも見えず遊離石灰の析出も見られない。最後は昭和13年架橋で筑後81年が経過した上路式RC造開腹アーチ橋である、兎原村が村有林を売却して建設費の地元負担金にあて、建設工事にも汗を流したと聞いている、河川右岸堤防上から見る姿は非常に美しく、新緑の自然と田園風景に溶け込んでいる、さすがは「土木遺産」である、アーチを構成しているコンクリートに豆板はところどころ見えるが、床版にひび割れも見えず遊離石灰の析出もほとんど見られない、当時は現地でコンクリートを練り人力で運搬打設したのであろうが、締固め機械も大した能力はなかった時代に、当時の土木技術者が苦勞して設計し妥協せずに施工をしたことが良く分かる、まだまだ現役で活躍できるだろう。土木技術者として大小の構造物の建設に関わってきたが、今日見学したような立派な仕事をしてきたか自問自答している。

最後に事前調査・見学会の行程の立案・関係機関との調整等に尽力された、事務局に御礼を申し上げる。

京都府舞鶴市在住 古城 弘年 記